

心に届く 信心真話

皆に喜ばれる選択とは

短

大を卒業し、保育士として保育園で働き出した私が、年末に金光教本部に一年のお礼参拝をした時のことです。

保育園では、先輩の二人の保育士と一緒に、約20人の2、3歳児のお世話をしていました。新米保育士として、ここまですべてをやらせてもらって、子どものお世話になっていくことを忘れぬように、お礼申して、お

世話をさせて頂きましうな

その心温まるお言葉に、「よし、来年も頑張るぞ」という気持ちで、胸の奥からわき上がってきました。

そ

は内心、気になつていることがありました。それは、金光教の教師を養成する金光教学院への入学のことでした。

両親は、口には出さず、入学に願いを懸けていることを、私は心のどこかでいつも意識していました。

この時、私は思いがけず、「金光様、学院に入らせて頂こうか、どうしようか」という思いがありますが、口に出していません。

その時、金光様は次のように、懇切に教へて下さいました。「自分一人が良ければいいのではなく、みんなに喜んでもらえることをさせてもらいましょう。また、今までのいろいろな人のお世話に

なつていことを忘れることです。あなたと私が

会えるのも、教祖様がいて、父や母がいて、こうして会えているということでしょう。先のこととは分かんない。今、お礼を土台にして生きることが大切です。

私はお結界を下がると、金光様のお言葉を頭の中で反すうしながら、教祖様の奥城おつきに参拝しました。

「金光様は私に何を伝えてくださったのか」と、私なりにいろいろと考えているうちに、思い切つて学院に行かせてもらおうと、心が定まっていたのです。その心境の変化は、自分でも不思議というほかありませんでした。

年

私が明けて早々、私は保育園の園長に学院入学の願いを話しました。職場に迷惑を掛けることでもあり、もし園長が難色を示されたら、再度の時節を待とうと考へながら、話をした

のです。

すると園長は、「あなたのような神仏への志を持った人が、この園にいてくれたことをうれしく思う。また、ご縁があればいつでも戻っていらつしゃい」と言つて、退職の願いを快く受け入れてくださったのです。実はこの保育園は、あるお寺が経営していて、園長はそのお寺の住職でもあったのです。

私

は三月末で保育園を退職し、その年の5月から学院での修行生活に入りました。入学に先立って父からは、「親の願いのためではなく、神様が何を喜ばれるかを考へてほしい。お道のご用とは、そういうものだ」と言われました。

それから二十数年がたった今日、神様に喜んでもらえるようなことがどれほどできてきたのかと自らに問いながら、教会でのご用にお使い頂いています。

※このお話は実話をもとに執筆されたものですが、登場人物は仮名を原則としています



入学させて頂こう！

次号の予告 10月5日号

特集 (2、3面)

金光教講演会始まる

立教150年記念金光教講演会が始まりました。それに先立って、事前集会在9月4日、霊地で開催された。集会の内容を中心に、講演会に託された願いを紹介する。

INFORMATION

ニューヨーク集会開催

祭典と教話、日ごろの生活で抱える疑問などについて教会の先生と一緒に語り合う懇談の場を用意しています。ご家族、お友達をお誘い合わせの上、

ぜひ、ご参加ください。

●日時と場所
10月25日(土) 午後2時～6時
先生と共にコーヒータイム
Starbucks at Broadway and Grand

10月26日(日) 午前11時30分～
オニガシマレストランで
Prayer Service
●問い合わせ先 Eメール Konko
FaithNYC@gmail.com (日本語可)
岡本さお美

「金光新聞編集室」のEメールアドレス kses@konkokyo.or.jp

JTB金光営業所

生神金光大神大祭時の臨時営業と、振替休業のお知らせ

臨時営業日

9月28日(日)

10月5日(日)

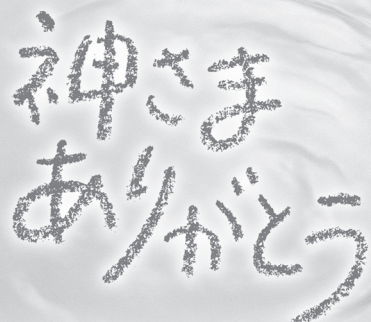
振替休業日

10月14日(火)

定休日 土・日曜、祝日
営業時間 9:30～12:30
13:30～17:30

金光教広報紙

9月28日発行



金光教広報紙「神さま ありがとうございます」の最新号です。

教会周辺や信者の周囲の人々に、金光教の生き方に基いた生き方や考え方を伝える一助として、ぜひご活用ください。

編集/金光教本部教庁「金光新聞」編集室 発行/新聞書籍発行運営委員会 (販売・金光教徒社) ●B4判・200部 1050円 (消費税込・送料別)

お問い合わせは金光教徒社内金光教広報紙係まで

子育て支援



父親サポート関西事務局長
花本 芳明さん

裏面

金光教ラジオ放送から



あいよかけよの生活運動

願 い
わが心の神にめぐみ
祈り、対話、行動をもって
神を現す生活をすすめ
共に助かる世界を生みだそう